（別紙様式）

都道府県番号	8
都道府県名	茨　城　県

（①□　②□　③☑）

Ⅰ．学校名及び規模

水海道市立大生小学校										
	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数	
学級数	１	１	１	１	１	１	１	７	１１	
児童数	３１	２５	３０	３０	２４	３０	３	１７３		

Ⅱ．実践研究の概要

・主題

個に応じた指導による確かな学力の定着を図る指導の在り方

－国語科・算数科の指導方法・形態の工夫を通して－

・テーマ設定の趣旨

個々の児童の学習の到達度や，その伸長状況を具体的に評価できるような評価規準を工夫改善し，一人一人の個性等に応じた子どもの力をより伸ばす。

Ⅲ．実践研究の内容について

（ｉ）研究体制の工夫

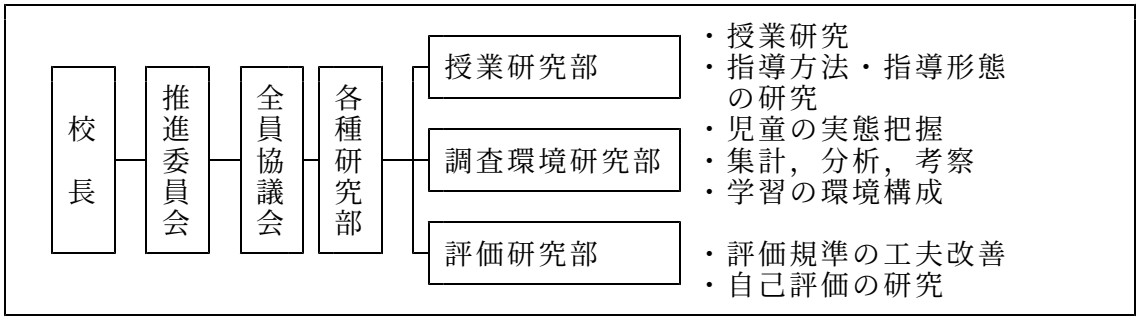
○　実施学年と教科を次のように設定した。

１・４・５年生算数（子供の理解度に差が出やすい教科であるため）

２・３・６年生国語（個に応じた指導の充実が図りにくい教科であるため）

○　研究の仮説を「個々の児童の学習の到達度や，その伸長状況を具体的に評価できるような評価規準を工夫改善すれば，一人一人の個性等に応じて子どもの力をより伸ばすことができるであろう。」と設定した。

○　研究体制の実際



（ⅱ）実践研究の内容

○　指導案の改善

・個に応じた指導をするために，まず児童の実態把握を行った。実際に既習内容がどの程度習得されているかをレディネステストで把握し，つまずきが見られた児童に対しては補充指導し，理解できるようにした。

・本時の学習では，視点を明確にして個別化を図ることとした。

・単元の指導及び評価計画の中に，１時間毎に学習のねらいを達成するための基礎・基本を記述した。

・授業中の評価については，評価の方法を明記し，どの学習過程においても評価できるように計画を立てた。

○　指導法の改善

・学習の進め方を児童一人一人が理解し，自主的に学習できるようにした。

・学習課題を把握する段階では，どのような方法で学習を進めていくかという方法意識をもたせるようにした。

・自力解決の段階では，ワークシートの工夫をし，各自の力に応じた学習が進められるようにした。２から３種類のワークシートを用意したり，ヒントカードを用意したりし，自分の力に合わせたものを選び学習できるようにした。またＴ１・Ｔ２が役割分担を行い，実態把握で個別化した結果を基に指導に当たった。ここで，学習進度に差が出やすいので，はやく進んだ児童には，発展的な問題を与え，進まない児童にはヒントカードを渡したり，教師が助言を行ったりした。

・比較検討の段階では，自分の考えと友達の考えを比較しながら話し合いができるようにした。

・適用問題で習熟を図る段階では，児童選択による習熟度に応じた適用問題を用意し個に応じるようにした。その際，発展的な指導・補充的な指導に心がけ基礎・基本の定着が図れるようにした。

・週３時間のＴＴの活用では，児童の実態に応じて役割分担し，個に応じた指導と評価を実施した。

○　到達度評価について

・授業においての到達目標を分析し，評価規準を作成した。その際，おおむね満足できる状況を評価規準ととらえ，他は十分満足できる状況を見とる視点，努力を要する児童の予想される姿とした。

・学習後の伸びを的確に評価するために，前単元までの学習内容の実態を把握した。そして，児童の予想される学習の姿を想定し，それに対す支援の方法と変容の様子を予想して指導に当たった。

・評価の方法は，従来の観点に照らした方法ではなく，指導過程にそって，学習活動の様子を具体的に評価した。指導案の展開の中にも具体的に位置付けた。

○　自己評価について

主体的な学習を進めたり，学習過程における学習結果を確かに振り返ることができるように，指導過程にそって観点を提示し，自主的に自己評価ができるような振り返りカードを作成した。

○　個人カルテについて

単元ごとに最終的な評価を書き込み，個人カルテとして次学年に引き継ぐ物である。既習内容の習熟度がより具体的にとらえられるように工夫していきたいと考えている。

（ⅲ）成果と課題

○　成　果

・ＴＴの時間が確保され，有効活用が図れた。児童にとっても複数の教師に指導されることで，つまずいた問題に対して意欲的に取り組めるようになった。

・個に応じたワークシートを選択する能力が身に付き，自主的に学習を進められるようになった。

・指導案の見直しを実施したことで，個に応じた指導をするための実態把握や個別化の視点を考えて指導，評価ができるようになった。また，ＴＴ担当者が児童の実態を把握した上で指導できたので，個別指導がしやすくなった。

・全学年統一された学習環境が整った。また，板書構成やノート指導の共通理解が図れるようになった。

・評価を通じて，指導過程や方法の見直しや教材研究の充実など，学力の定着が図れるような効果的な指導を心がけるようになった。

○　課　題

・一単位時間における補充・深化・発展の指導の在り方や個に応じた指導法の工夫・改善についての研究。

・少人数指導や習熟度別指導の効果的な活用の取り組みについての研究。

・指導と評価の一体化をより充実させるための補助簿の改善やポートフォリオ的な個人カルテの作成と有効活用についての研究。

・学びの時間の学習内容の充実と方法の改善。ならびに，全学年実施に向けて教育課程編成の工夫。

・家庭学習の在り方の検討。

（ⅳ）成果の普及方策

○　茨城県県西地区協議会でのフロンティアスクールによる公開授業及び協議

日　時　　平成１４年１０月１８日（金）

場　所　　水海道市立大生小学校・水海道市立水海道小学校

対　象　　県西地区内の小中学校及び保護者や地域住民

○　現在平成１４年度の研究についてのＨＰを作成中である。